



各校の取組の工夫を紹介します！



工夫1 機会づくり

<家読をするときをつくる>

- ・毎月第3金曜日（毎月1回）を「親子読書の日」と決めている。
- ・毎月第2土曜日を「家庭読書の日」として、家読を呼びかけている。
- ・読書週間を中心に「親子読書」に取り組んでいる。
- ・夏休みや冬休みの長期休業のとき、「親子読書」に取り組んでいる。

<家読をする場所を提供する>

- ・「なかよし読書」と称し、夏休みの図書館開館の折、子どもに連れ添って来た保護者にも図書館を開放し、子どもと一緒に読書する機会を設ける。



工夫2 取り組み方法

<親子読書・家庭読書>

*カードを使って

- ・親子で1冊の本を読み、その本の感想や印象に残った場面を絵に描くなど。
- ・家読カードを配り、「親子で同じ本を一緒に読む・親子で読書タイムをもつ・子どもが親に本を読んで聞かせる・親子でそれぞれ読んだ本の感想を話す」の中から方法を選んで読書し、カードに感想を書いた。
- ・読書週間中は、家読の本を図書室前に並べ、家読ブックリレーをとおして、親子で読んだ本や感想をカードに書いた。
- ・集団読書テキスト（全国学校図書館協議会発行）を各家庭に配布し、家族と生徒が同じ本を読み感想を記入、語り合う機会をつくった。
- ・親子で読書記録を書き、その記録を学年ごとに冊子にして学級文庫として設置した。子どもたちは、手に取りよく読んでおり、選本の手がかりになったり、読書交流の機会になったりしている。
- ・全校で、「リレー家読」に取り組んだ。第1回目は、「いのち」をテーマとし、学年ごとに1冊の本を回覧して各家庭で家読を実施。親子それぞれ一言感想を記入し、学年全体で共有し合った。

***家読貯金を使って**

- 「うちどく貯金」の取組。100冊読むごとに新通帳を発行した。
- 家読貯金として、全校で毎日の読書の記録をつけ、ボーナスカード（本が2冊借りられる券）を発行したりして読書を推進した。

<読書郵便>

- 学年ごとに課題本を決め、その本を生徒のおすすめの言葉を添えて、夏休みに家に持ち帰り、家族の人にもらった。
- 読書郵便を行い、家庭で紹介しあったものを図書室前に掲示した。
- 子どもから親(家族)へ、親(家族)から子どもへおすすめの本、好きな本、想い出の本など一冊の本を紹介し合う「読書ゆうびん」の取り組みをし、作品を掲示して全校に紹介した。
- 親子読書の本を全校に広げるため、読書ビンゴや読書郵便を活用した。

<その他の取組>

***子どもの実態を把握して**

- 家庭内における読書の実態アンケートを行い、実態把握とともに、家読の意義等につながる啓発的な取り組みを実施した。

***公共図書館と連携をして**

- 公共図書館と近隣の小中学校が連携をし、うちどくポストカードの取組を実施。集まった作品を公共図書館内に掲示したり、巡回展示を各学校で行った。

***家族参加の取り組みを企画**

- 「これが我が家のNO.1（家読におすすめの本）」の冊子を作成した。
- 「うちどくの木」の取組。親子で同一テーマの下、春は児童が、秋は保護者が思いを書いて、「うちどくの木」に感想の紙を貼った。

***県の催しに参加**

- 「うちどくポップ展」への参加。

***親への働きかけとして**

- 学校で借りた本を親に見せる取組
忙しい親も、子どもが借りた本の最低でも表紙を見るだけなら負担がないので、全校で取り組んでいる。子どもの興味関心を知ったり、そこから親子での読書についての会話が生まれることを期待して実施している。
- 授業参観で保護者が来校した際に、図書館で読み聞かせ用の本を借りてもらい、子どもに読み聞かせをしてもらった。
- 中学校入学時にいただく「サードブック」を活用し、親子で本を読み、その感想を寄せてもらう。次年度には、その感想を参考にしている。



工夫3 周知方法

＜お便りの活用＞

- 小中共通の「うちどく通信」を作成し、全戸配布した。
- 本についてのアンケート（家族が中学生のときに読んだ本で印象に残ったもの）を行い、図書だよりで内容を取り上げた。
- 「図書館だより」に、家読用の本のリストを載せ、紹介した。
- 親子読書(家庭読書)の児童・保護者の感想をおたよりで紹介した。
- 家庭学習の手引きに、家庭での親子読書の勧めを掲載し啓蒙した。
- 学校だよりで「家読」について取り上げた。
- 生徒へのアンケートに「家読」について尋ねる項目を設け、結果をおたよりで伝える。
- 「〇小人気の本総選挙」という取り組みをし、その中で選ばれた本を「家読」の資料とともに保護者に配布した。

＜司書・図書委員会の働き＞

- 2年生対象(親子)に学校司書による家読のすすめの話をした。
- 図書委員会が毎月家読おすすめ図書を紹介した。
- 図書委員会が、放送で呼びかけた。

＜保護者が集まる機会を利用＞

- PTA 総会や学年部会・学級懇談会の場で、「家読」の趣旨を伝え、各家庭への啓発をすすめた。
- 「家読」の感想用紙を学園祭で掲示。その後、図書館で掲示しスタンプラリーを行った。
- 学園祭の展示部門に、「家読」コーナーを設け、本の紹介をするなど呼びかけを行った。

＜地域への働きかけ＞

- 学校だよりで「家読」について取り上げ、地域にも自治会回覧をお願いした。
- 図書だよりや地区懇談会等で、家庭への啓発を進めた。
- 公共図書館と連携し取り組んだ「うちどくポストカード」の作品を、公共図書館内でも掲示し、図書館利用者にも観てもらった。



工夫4 環境を整える

<図書館の環境整備>

- 県内の公立図書館の紹介やパンフレットの展示を行った。
- 図書室の本を保護者へ貸出する。
- 図書室に家読コーナーを設けた。
- 家読フォーラムの講演で紹介された絵本を購入し、図書館だよりでも紹介した。
- 図書室に家読コーナーを設け、その本に関するクイズを出すなどして、家読をすすめる取り組みを行った。
- 授業参観日や長期休み等の折りに、保護者に対しても図書館を開放した。
- 家読におすすめの本には、ラベルを作成し貼っている。
- PTA 廃品回収、バザーの収益金から、親子読書用の本を購入した。(本の選定はPTA 役員)
- 選書会という学校で購入したい本を親子で選ぶ活動を実施した。
- 家読のリストに載っているもので、図書室で所蔵していない図書を購入した。